

2017年3月期 決算説明会

2017年5月11日



© 2017 MARUBUN CORPORATION

本日は、「2017年3月期決算の概要」「今期の業績見通し」「中期経営計画」の3点について説明します。

本日説明のポイント

■2017年3月期業績

売上高 2,706億円（前期比 3.2%減）

経常利益 26億円（前期比 20.2%減）

■業績修正(営業利益+9億円、経常利益+6億円、純利益+7億円)

■2018年3月期業績見通し

売上高 2,600億円（前期比 4.0%減）

経常利益 33億円（前期比 24.5%増）

■中期経営計画

デバイス事業

- 自動車・産業機器市場に注力
- 医療・IoT分野での事業強化

システム事業

- 情報通信機器を独立部門として事業拡大

2017年3月期 決算の概要

© 2017 MARUBUN CORPORATION

2017年3月期 連結決算サマリ (対前期比)

■売上高 2,706億円 (前期比 88億円減、10月予想比 6億円 0.3% 増)

- デバイス事業 通信モジュール向け半導体、TV・PC向けLCDパネルの減少
- システム事業 電子部品組立検査装置の増加

■営業利益 28億円 (前期比 3億円減、10月予想比 9億円 51.7% 増)

- 売上総利益 利益率の高い商品の構成比の増加
- 販管費 退職給付費用、子会社増加による人件費・販売活動費の増加

■経常利益 26億円 (前期比 6億円減、10月予想比 6億円 32.6% 増)

- 営業外費用 為替差損429百万円

■当期純利益 16億円 (前期比 1.6億円減、10月予想比 7億円 83.3%増)

■業績修正要因

- 売上総利益率の改善、為替レートが円安に推移、販管費の節減

2017年3月期の連結売上高は、前期比88億円減、昨年10月予想比6億円（0.3%）増の2,706億円となりました。

これは、システム事業で電子部品組立検査装置が好調だったものの、デバイス事業で通信モジュール向け半導体やTV・PC向け液晶パネルが減少したことによるものです。

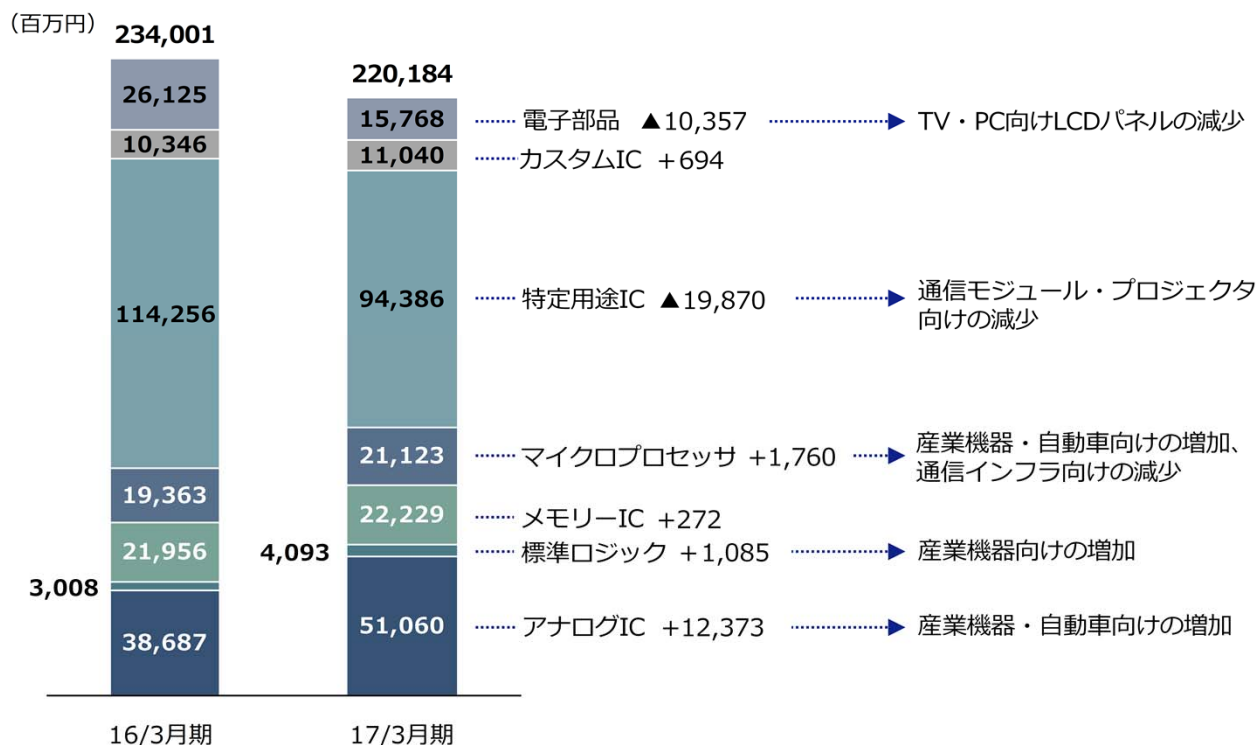
利益面では、売上総利益が22億円の増加となった一方で、販管費が26億円増加したため、営業利益は前期比3億円減、10月予想比9億円(51.7%)増の28億円、経常利益は為替差損の計上により前期比6億円減、10月予想比6億円(32.6%)増の26億円となりました。

なお昨年10月の業績予想に比べ利益が上回った理由は、利益率の高い商品の構成比が増加したことや為替レートが想定よりも円安で推移したことに加え、販管費を節減したことによるものです。

2017年3月期 業績サマリ

(百万円)	16/3月期		17/3月期		前年同期比		17/3月期 予想	
	実績	構成比	実績	構成比	金額	%	16/10月予想	構成比
売上高	279,571	100.0%	270,698	100.0%	△ 8,873	-3.2%	270,000	100.0%
デバイス事業	234,001	83.7%	220,184	81.3%	△ 13,817	-5.9%	219,000	81.1%
システム事業	45,570	16.3%	50,513	18.7%	4,943	10.8%	51,000	18.9%
売上総利益	18,319	6.6%	20,612	7.6%	2,293	12.5%	20,000	7.4%
販管費	15,106	5.4%	17,729	6.5%	2,623	17.4%	18,100	6.7%
人件費	9,264	3.3%	10,909	4.0%	1,645	17.8%	-	-
その他	5,842	2.1%	6,819	2.5%	977	16.7%	-	-
営業利益	3,212	1.1%	2,883	1.1%	△ 329	-10.2%	1,900	0.7%
営業外収益	734	0.3%	705	0.3%	△ 29	-4.0%	850	0.3%
営業外費用	624	0.2%	937	0.3%	313	50.2%	750	0.3%
経常利益	3,321	1.2%	2,651	1.0%	△ 670	-20.2%	2,000	0.7%
特別利益	870	0.3%	1	0.0%	△ 869	-	10	0.0%
特別損失	893	0.3%	65	0.0%	△ 828	-92.7%	60	0.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,810	0.6%	1,650	0.6%	△ 160	-8.8%	900	0.3%
期末従業員数（名）	1,266	-	1,397	-	131	10.3%	-	-

2017年3月期 デバイス事業品目別売上高



MARUBUN CORPORATION

© 2017 MARUBUN CORPORATION

5

事業セグメント別にご説明します。

デバイス事業の売上は、前期の2,340億円から2,201億円へと減少しました。

特定用途ICの減少は、通信モジュール向けやプロジェクタ向けの反動減によるものです。

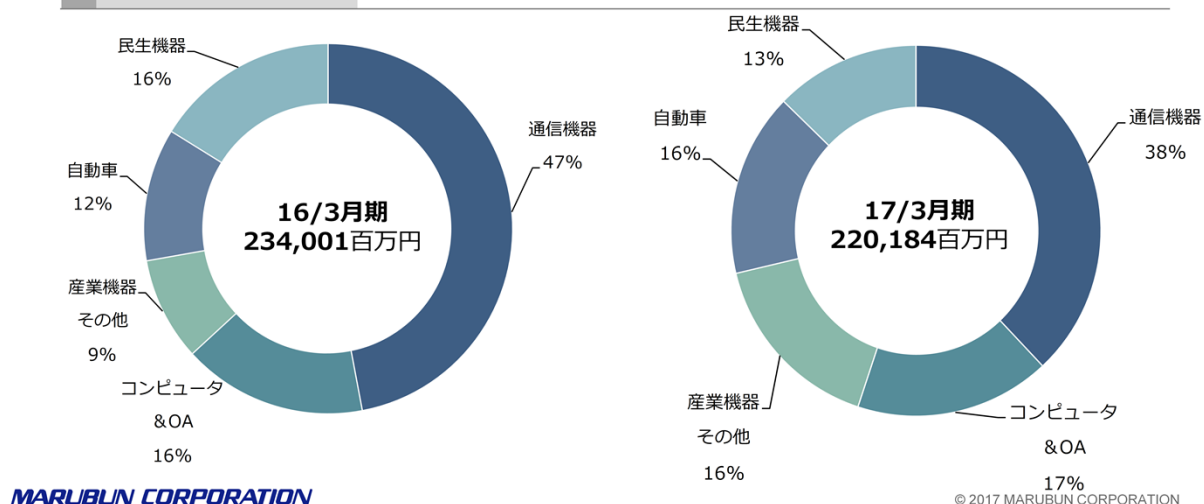
電子部品は、TVやPC向け液晶パネルが減少しました。

一方で当社が注力しているアナログICと標準ロジックおよびマイクロプロセッサは増加しました。

特にアナログICが期初見通しよりも大幅に増加し、ポートフォリオの改善が進みました。

2017年3月期 デバイス事業 用途別市場動向

用 途	市 場 動 向
産業機器その他	FA機器向けが増加
自動車	ナビゲーション・車内通信・エンジンコントロール向けが増加
コンピュータ&OA	PC向けが増加、OA機器向けが減少
通信機器	通信モジュール向けが減少
民生機器	TV・ゲーム機向けが減少



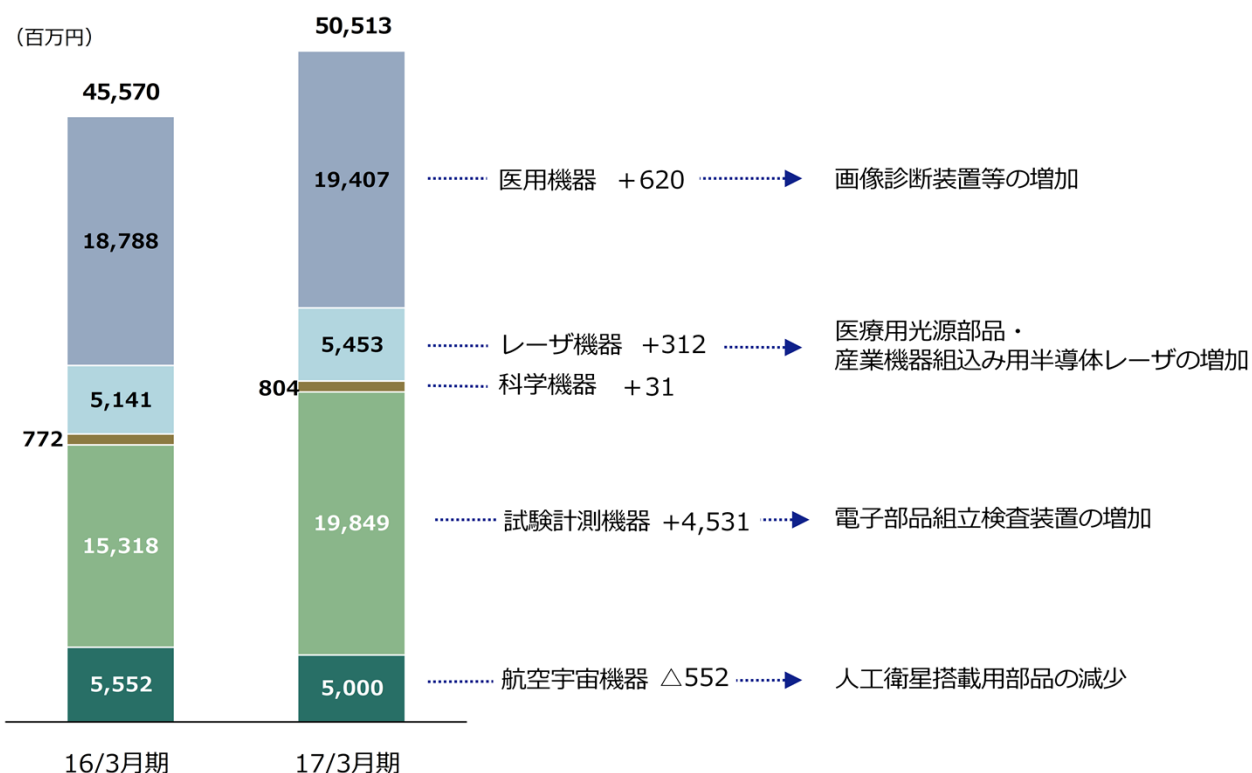
デバイス事業を用途別で説明します。

売上構成比は通信機器と民生機器が低下し、産業機器の割合が9%から16%へ大きく上昇し、自動車も12%から16%へと上昇しました。

通信機器は通信モジュール向けの減少によるものです。

民生機器市場はTV・ゲーム機向けが減少しました。

2017年3月期 システム事業品目別売上高



MARUBUN CORPORATION

© 2017 MARUBUN CORPORATION

7

システム事業の売上は、前年同期の455億円から505億円に増加しました。

増加したのは、試験計測機器、レーザ機器、医用機器です。

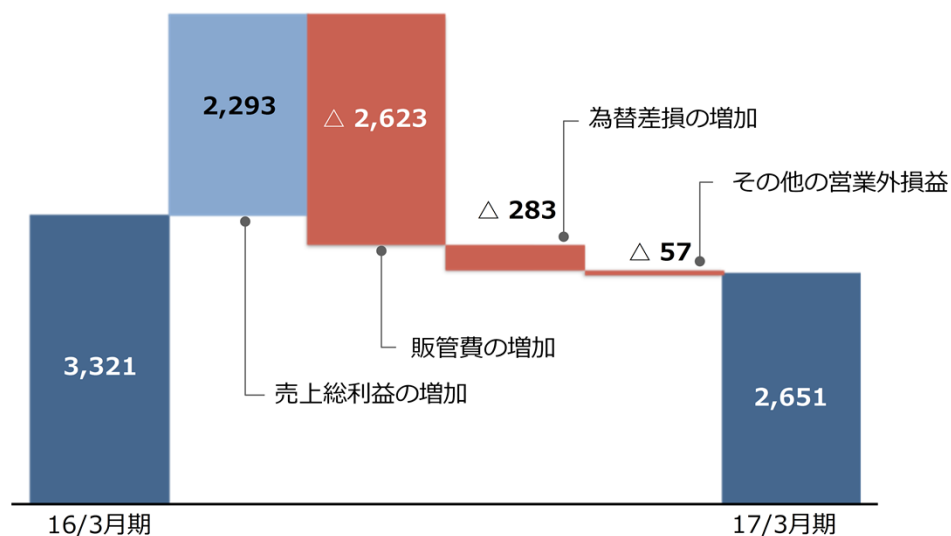
試験計測機器は、CMOSセンサー向けの電子部品組立検査装置が大幅に増加しました。期初見込みよりも上振れました。

レーザ機器は、産業機器組込み用半導体レーザや医療用光源部品が好調に推移しました。

医用機器については、MRIやCTなど画像診断装置が増加しました。

2017年3月期 経常利益の増減要因

(百万円)



売上総利益	利益率の高い商品の構成比増による売上総利益の増加 16/3月期：183億円（6.6%）→ 17/3月期：206億円（7.6%）
販管費	子会社増加や退職給付費用の増加 16/3月期：151億円 → 17/3月期：177億円
営業外損益	為替差損の増加 16/3月期：差損1.4億円 → 17/3月期：差損4.2億円

経常利益の増減要因について説明します。

前期の経常利益は33億円でした。

売上総利益は、利益率の高い商品の売上構成比が増加したこと、連結子会社増加の寄与により、22億円増加しました。

販管費は、子会社の増加や退職給付費用の増加により、26億円増加しました。

営業外損益は、上期に急速に進んだ円高の影響により為替差損が1億4千万円から4億2千万円に増加しました。

この結果、経常利益は26億5千万円となりました。

2017年3月期 貸借対照表の概要

(百万円)	16/3月期末 実績	17/3月期末 実績	前期末比 増減額	主な増減理由	
資産合計	106,513	125,984	19,471	受取手形及び売掛金	11,904
流動資産	96,211	113,711	17,500	商品及び製品	4,620
固定資産	10,302	12,273	1,971		
負債合計	60,175	78,434	18,259	支払手形及び買掛金	2,066
流動負債	49,481	67,272	17,791	短期借入金	15,345
固定負債	10,693	11,161	468		
純資産合計	46,338	47,550	1,212	株主資本	918
				その他の包括利益累計額	428
				非支配株主持分	△ 134

総資産は、前期末に比べ194億円増加しました。

これは、売掛債権が119億円、棚卸資産が46億円増加したことによるものです。

負債は、前期末に比べ182億円増加しました。

これは、仕入債務が20億円、短期借入金が153億円増加したことによるものです。

2017年3月期 キャッシュフロー計算書の概要

(百万円)	16/3月期 実績	17/3月期 実績	主な増減理由
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 1,204	△ 5,894	税引前当期純利益 2,587 売上債権の増加 △ 6,972 棚卸資産の増加 △ 1,925 仕入債務の増加 1,450
投資活動による キャッシュ・フロー	493	△ 1,862	固定資産の取得による支出 △ 1,017 子会社株式取得 △ 286 仕入先株式取得 △ 234
フリー・キャッシュ・フロー	△ 711	△ 7,756	
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 6,724	6,282	短期借入金の純増 7,456
現金及び現金同等物の増減額	△ 7,810	△ 1,485	
現金及び現金同等物の期末残高	13,702	12,216	

営業キャッシュフローは、58億円の資金の流出となりました。

これは主に税引前当期純利益が25億円だった一方で、売上債権が69億円、棚卸資産が19億円増加したことによるものです。

投資キャッシュフローは、本社社屋修繕および情報システム開発による固定資産取得による支出などにより18億円の資金流出となりました。

この結果、フリーキャッシュフローはマイナス77億円となりました。

これに対応する財務キャッシュフローは、短期借入金の増加により、62億円の資金の流入となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の期末残高は122億円となりました。

2018年3月期 業績予想の概要

© 2017 MARUBUN CORPORATION

2018年3月期 業績予想サマリ

■売上高 2,600億円（前期比 106億円 4% 減）

- デバイス事業 通信モジュール向け半導体の減少、NXP代理店解消の影響
- システム事業 医療用光源部品の増加、電子部品組立検査装置の減少

■営業利益 35億円（前期比 6億円 21.4% 増）

- 売上総利益 売上総利益率の改善
- 販管費 退職給付費用等の減少

■経常利益 33億円（前期比 6億円 24.5% 増）

■当期純利益 18億円（前期比 2億円 12.1% 増）

2018年3月期の業績見通しについて説明します。

通期の業績は、売上高が昨年度に比べて106億円(4%)減の2,600億円を見込んでいます。

デバイス事業では通信モジュール向けの減少、NXP社代理店解除の影響を見込んでいます。

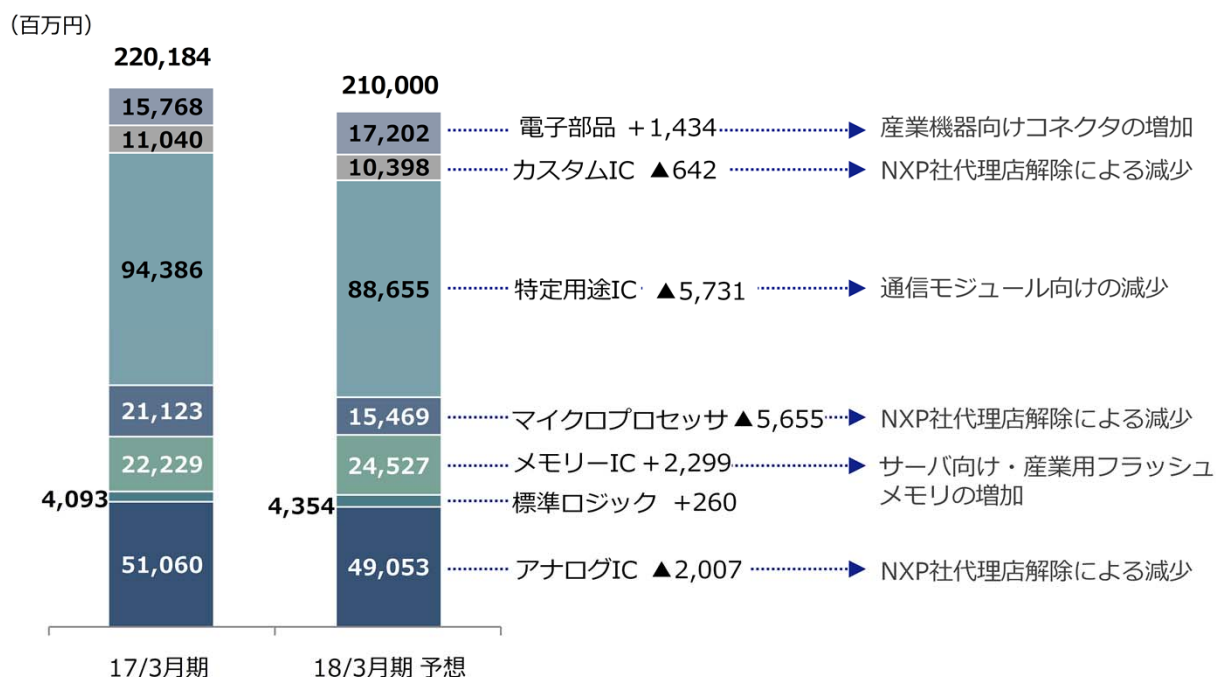
システム事業では、医療用光源部品の増加、電子部品組立検査装置の反動減を見込んでいます。

減収の見込みとなっていますが、売上総利益率の改善、退職給付費用など販管費の減少により、営業利益は6億円(21.4 %)増の35億円、経常利益は6億円(24.5%)増の33億円となる見通しです。

2018年3月期 業績予想サマリ

(百万円)	17/3月期		18/3月期		前期比	
	実績	構成比	予想	構成比	増減額	%
売上高	270,698	100.0%	260,000	100.0%	△ 10,698	-4.0%
デバイス事業	220,184	81.3%	210,000	80.8%	△ 10,184	-4.6%
システム事業	50,513	18.7%	50,000	19.2%	△ 513	-1.0%
売上総利益	20,612	7.6%	21,000	8.1%	388	1.9%
販管費	17,729	6.5%	17,500	6.7%	△ 229	-1.3%
営業利益	2,883	1.1%	3,500	1.3%	617	21.4%
営業外収益	705	0.3%	450	0.2%	△ 255	-36.2%
営業外費用	937	0.3%	650	0.3%	△ 287	-30.6%
経常利益	2,651	1.0%	3,300	1.3%	649	24.5%
特別利益	1	0.0%	0	0.0%	△ 1	-100.0%
特別損失	65	0.0%	50	0.0%	△ 15	-23.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,650	0.6%	1,850	0.7%	200	12.1%

2018年3月期 デバイス事業品目別売上高予想



事業セグメント別にご説明します。

デバイス事業は昨年度の2,201億円から2,100億円に減少する見込みです。

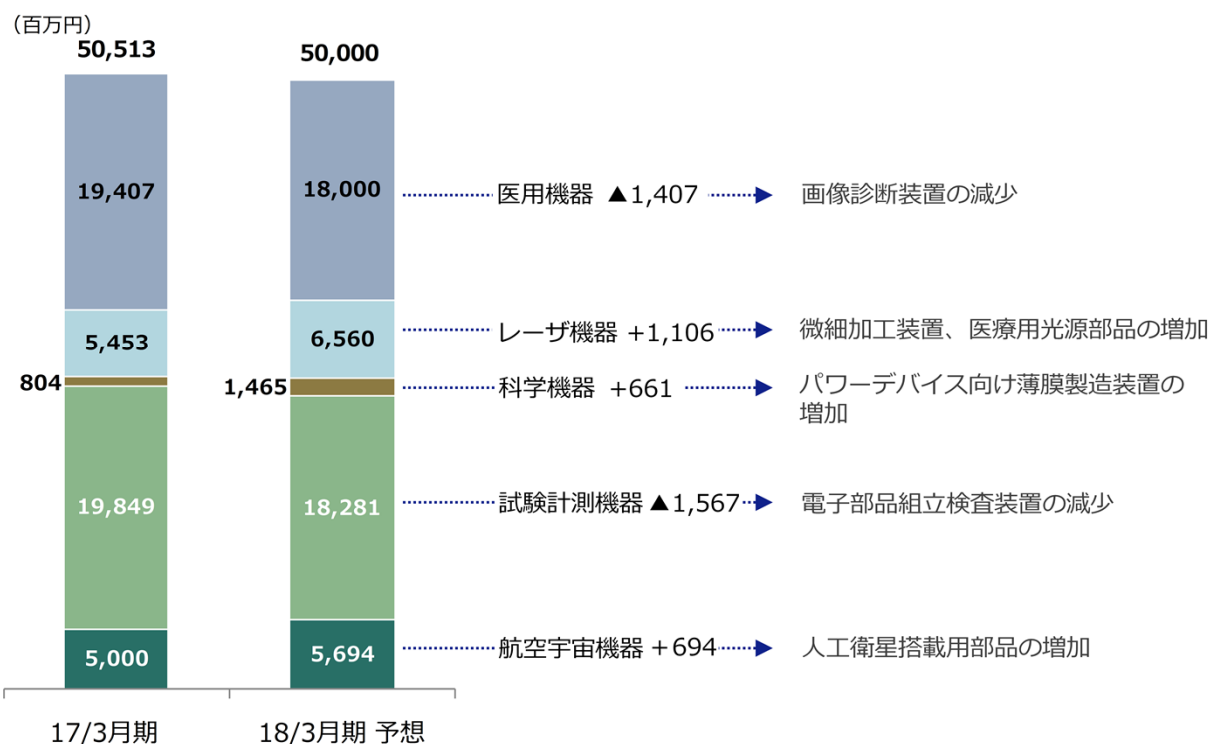
アナログIC、マイクロプロセッサ、カスタムICは、昨年度NXP社との代理店契約を解消したことにより減少を見込んでいます。

特定用途ICは、通信モジュール向けでの減少を見込んでいます。

一方で、増加するのは、メモリーICと電子部品です。

メモリーICはサーバや産業用のフラッシュメモリ、電子部品は産業機器向けコネクタの増加を見込んでいます。

2018年3月期 システム事業品目別売上高予想



MARUBUN CORPORATION

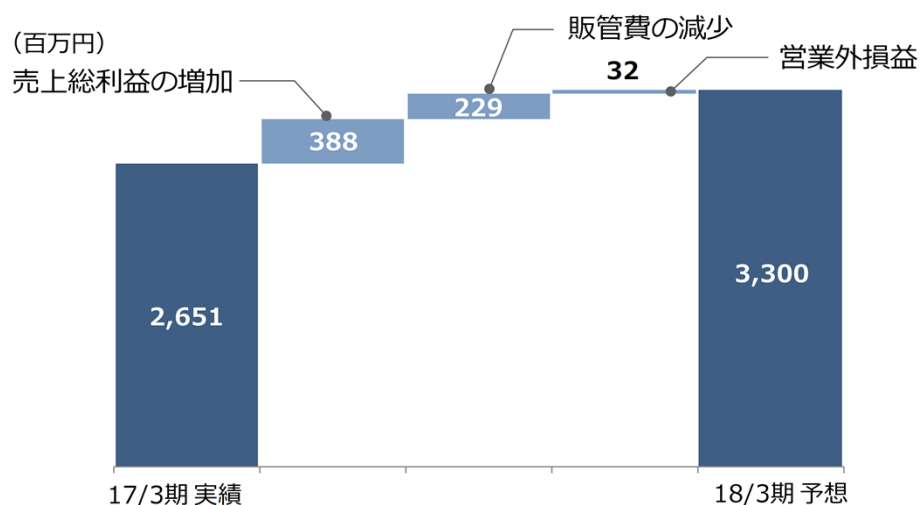
© 2017 MARUBUN CORPORATION 15

システム事業については、昨年度の505億円から500億円に減少する見込みです。

試験計測装置は、昨年好調だった電子部品組立検査装置の反動減を、医用機器も画像診断装置の更新需要の端境期に当たるため減少を見込んでいます。

一方で、レーザ機器は微細加工装置や医療用光源部品の増加を見込んでいます。また航空宇宙機器や科学機器も有望な案件を抱えており増加する見込みです。

経常利益の増減要因（前期 vs. 予想）



売上総利益	利益率の高い商品の売上構成比の増加 17/3月期：206億円(7.6%) → 18/3月期予想：210億円(8.1%)
販管費	退職給付費用の減少 17/3月期：177億円 → 18/3月期予想：175億円
営業外損益	前期並み

経常利益の増減要因について説明します。

ただいまご説明した通り、売上は減少を見込んでいますが、売上総利益については、利益率の高い商品の売上構成比が増加するため、昨年度より3億円の増加を見込んでいます。

販管費は、退職給付費用の減少により2億円減少する見込みです。

この結果、経常利益は6億円増加の33億円を予想しています。

株主還元

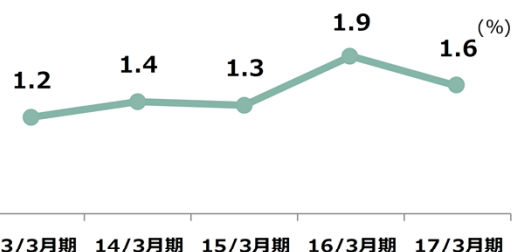
© 2017 MARUBUN CORPORATION

株主還元

■ 配当方針

配当性向 連結 30% 以上

■ DOE(株主資本配当率)の推移



■ 配当予想

(円)	17/3月期	18/3月期 (予想)
1株当たり年間配当金	25.00	25.00
中間配当	10.00	10.00
期末配当	15.00	15.00

株主還元について説明します。

当社は、連結配当性向30%以上目安として配当を決定しています。

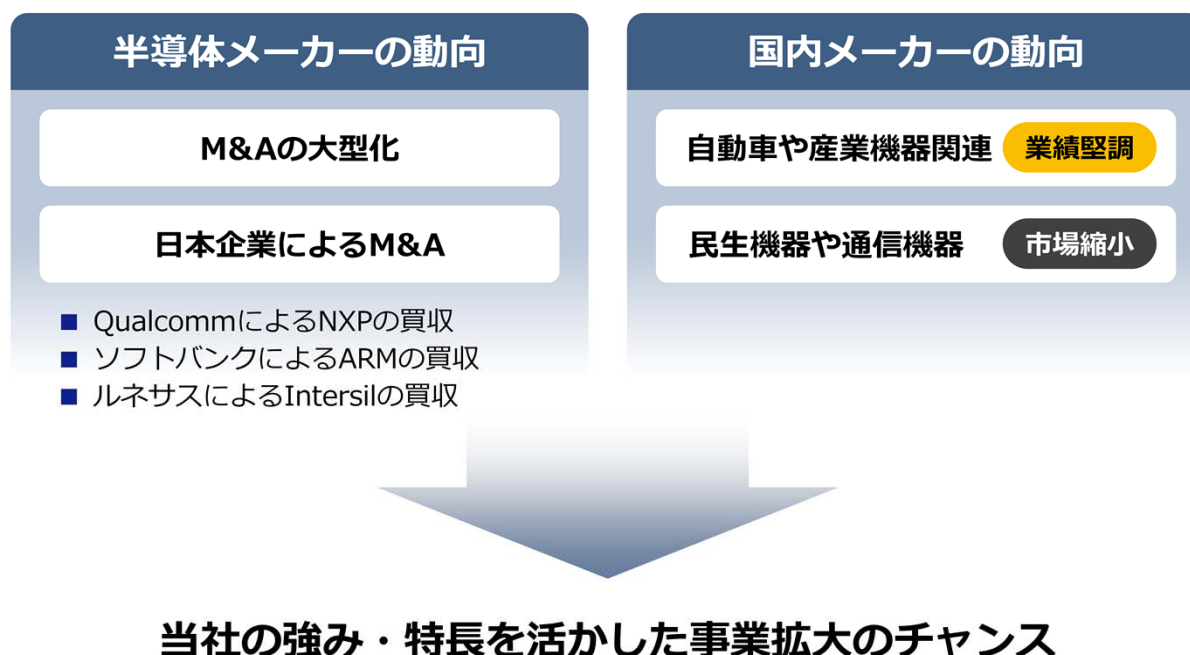
2017年3月期の期末配当金は期初の計画通り、15円とし、年間では25円とする予定です。

2018年3月期につきましても、中間10円、期末15円、合わせて年間25円を予定しております。

中期経営計画 事業戦略と重点施策

© 2017 MARUBUN CORPORATION

事業環境



直近の半導体業界の事業環境についてですが、ここ数年の大きな流れである、半導体メーカーによる大型のM&Aは未だ続いています。

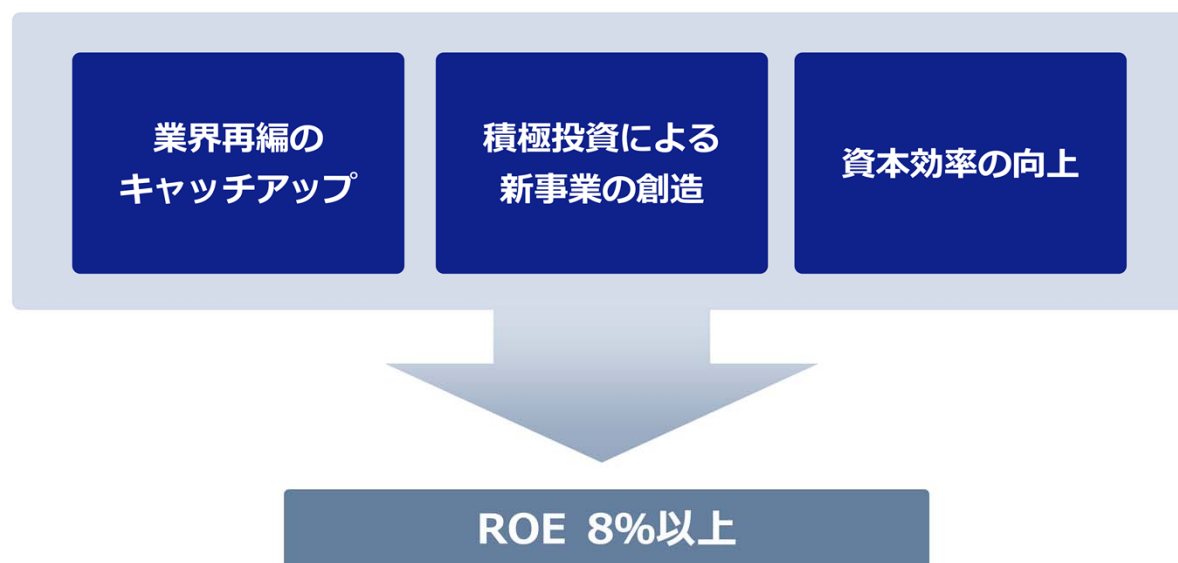
昨年度は、フリースケールを買収したばかりのNXPを、今度はQualcommが買収することが発表され、アナログデバイスは同じアナログ半導体メーカーのリニアテクノロジーを買収し、M&Aの大型化が進んでいます。

また日本企業でもソフトバンクによるARMや、ルネサスエレクトロニクスによるIntersilの買収がありました。

主要顧客である国内メーカーでは、自動車や産業機器関連で比較的堅調に業績を拡大している一方で、民生機器や通信機器の分野では市場が縮小する傾向が続いています。

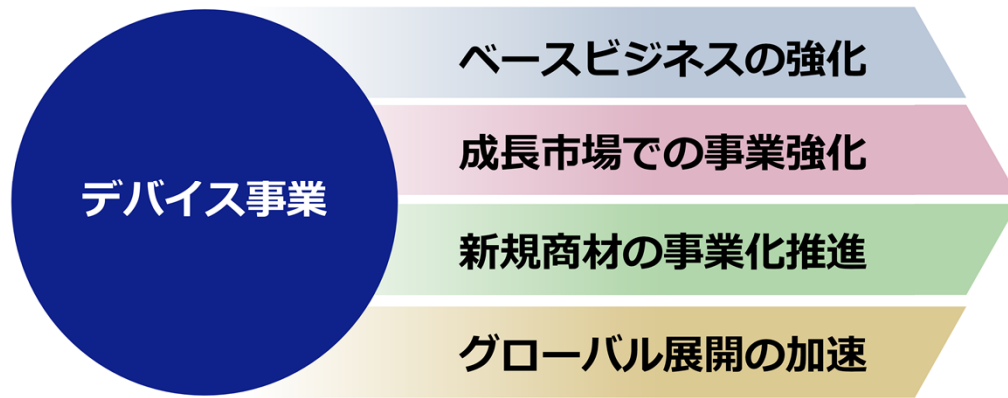
市場環境を見極めて、当社の強みや特徴を活かして、事業拡大を目指す考えです。

中期経営計画方針



このような業界環境の大きな動きの中、2019年3月期を最終年度とする中期経営計画では、業界再編をキャッチアップし、イノベーションへの積極投資による新規事業の創造に注力することで、資本効率の向上を図ることを基本方針とし、ROE8%以上の達成を目標としています。

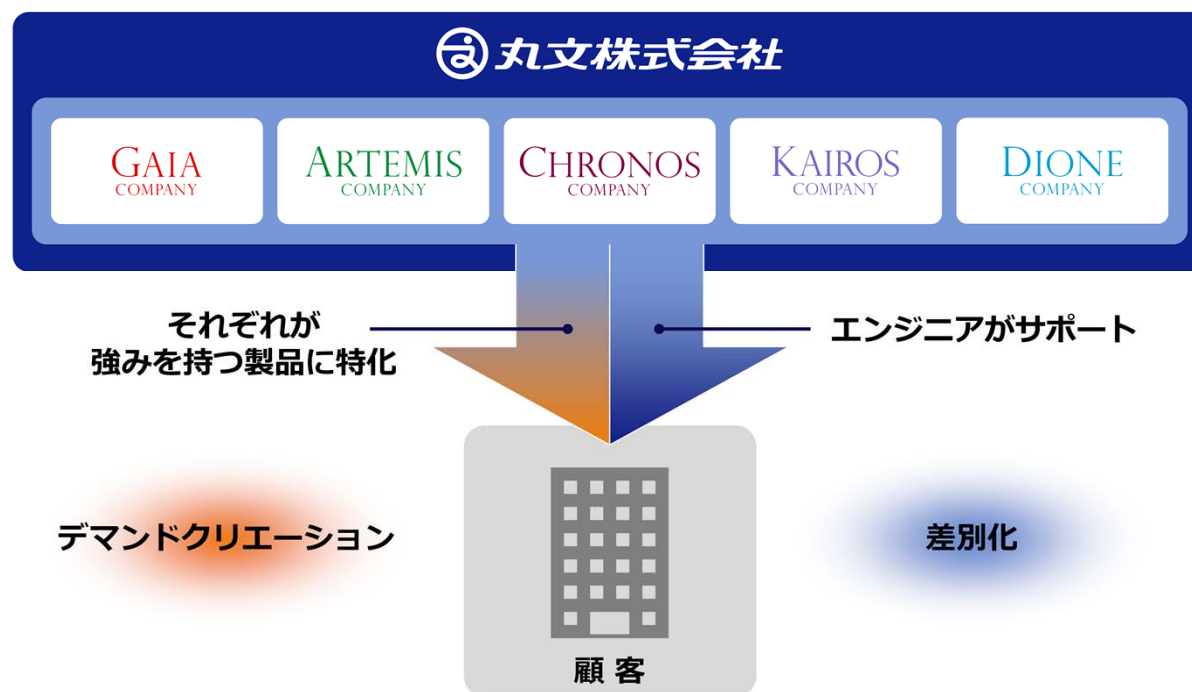
デバイス事業の4つの取り組み



デバイス事業では、「ベースビジネスの強化」、「成長市場での事業強化」、「新規商材の事業化推進」、「グローバル展開の加速」の4つの取り組みを進めております。

ベースビジネスの強化 ①

■ カンパニー制を導入



MARUBUN CORPORATION

© 2017 MARUBUN CORPORATION 23

昨年度より導入したカンパニー制により、それぞれが強みをもつ製品に特化してデマンドクリエーション活動を展開しています。今年度は新たにカイロスカンパニーを新設しました。

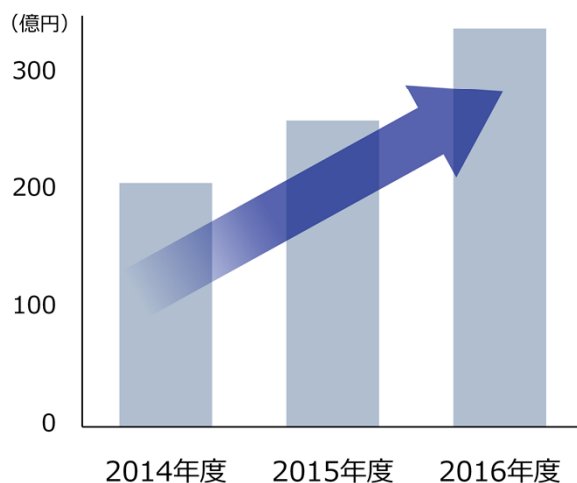
さらに当社が得意とする電源やセンサー、車載などのソリューションに精通したエンジニアがサポートすることで、差別化を図っています。

ベースビジネスの強化 ②

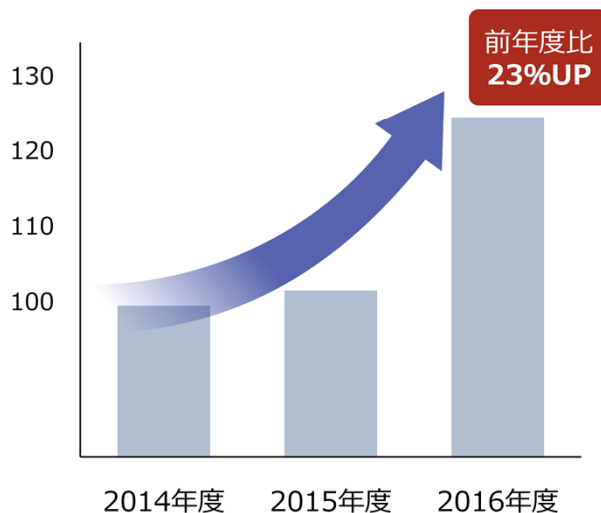
自動車・産業機器市場に注力

- リソースを集中し市場開拓
- KTLを子会社化

自動車市場向け売上高の推移



新規案件発掘数の伸び (2014年度を100とした推移)



Cypress社など新たな商材を追加すると同時に、自動車・産業機器市場に注力しています。

昨年度子会社化したKTLは、自動車・産業機器関連の顧客基盤が強く、今後さらにシナジーを高めていきたいと考えております。

ご覧のグラフの様に自動車市場向けビジネスは、順調に伸びており、また、同じくグラフにある様に、顧客が開発に取り組んでいる 新規プロジェクト案件の発掘数も順調に伸びています。

成長市場での事業強化

医療分野

- ▶ 新商材の追加
- ▶ 薬機法のライセンスの取得
- ▶ 品質管理部門を新設

MC10社 バイオセンサー



IoT ビジネス



成長市場である医療分野では、MC10社のバイオセンサーに加え、新たに血中酸素濃度計なども商材に加え、推進しています。また、医療機器を販売するために必要な薬機法のライセンスの取得を完了、さらに今年度は専門の品質管理部門を新設しました。

IoTビジネスでは、昨年度にAfero社のIoTプラットフォームの取り扱いを開始しました。

これは、強固なセキュリティを備えたIoTプラットフォームに、当社が得意とするセンサー技術などを付加し、アプリケーションに応じた開発サポートも手がけることで、従来型の商品売り切りビジネスではなく、ソリューションプロバイダーとしての継続的なサービスの提供を行い、息の長いビジネスを目指してまいります。

次世代・最先端のテクノロジーに着目

スタートアップ企業の開拓・育成
ラインカードの強化や新たな事業ドメインの開発

Cypress社

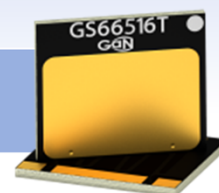
- IoT製品の垂直立ち上げ



GaN Systems社

- パワー半導体のリーディングカンパニー

自動車や発電分野に
販売促進



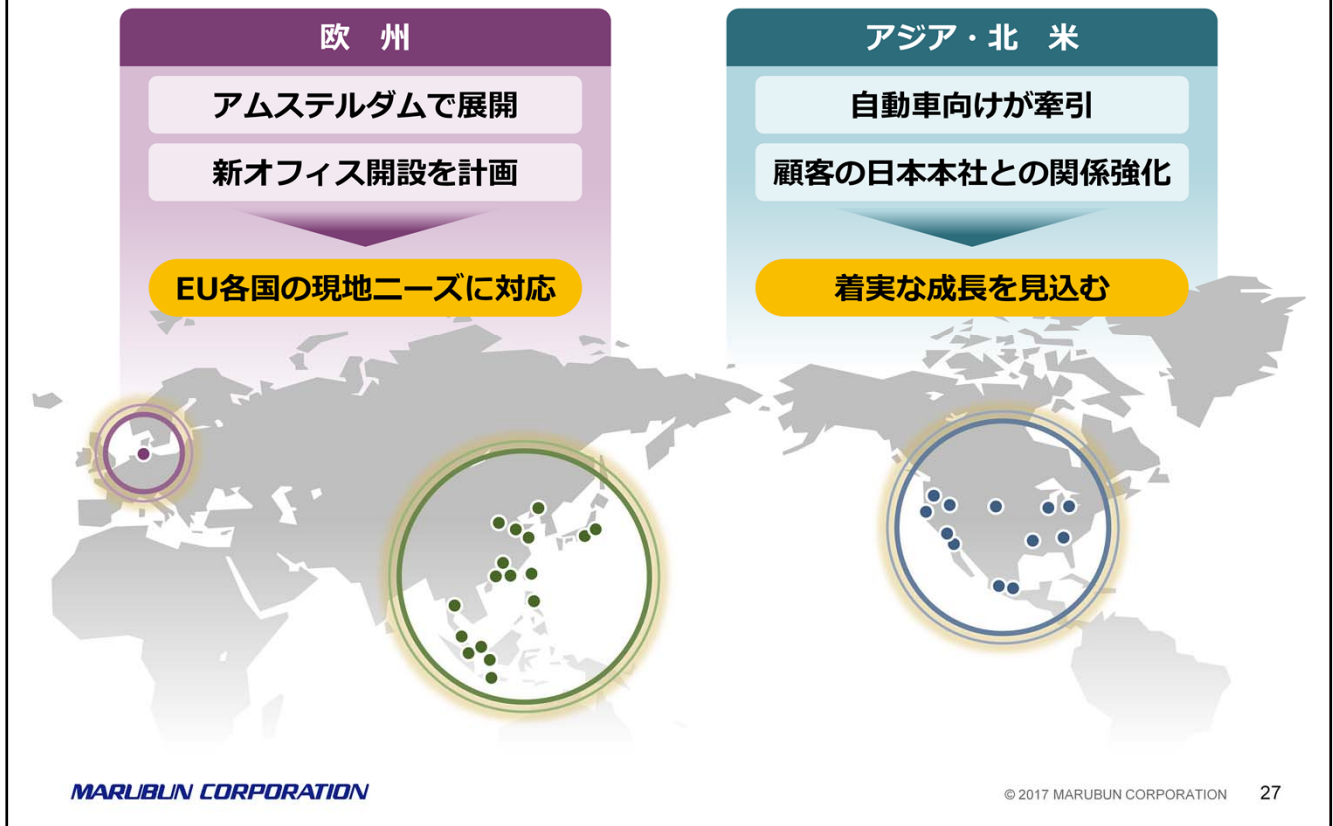
新規商材の事業化推進では、昨年BroadcomのIoT部門を買収したCypress社と新たな販売代理店契約を締結しました。

当社がBroadcomのIoT製品を取り扱っていたことから同製品の販売を昨年度スタートしたものです。

また直近では、次世代の半導体と呼ばれるガリウムナイトライドを材料とするパワー半導体のリーディングカンパニーであるGaNシステムズ社の製品取り扱いを開始しました。

同社の製品は、従来のシリコン半導体に比べて、高温・高電圧での性能に優れているという特徴があります。自動車や発電の分野に向けて販売促進に取り組みます。

グローバル展開の加速

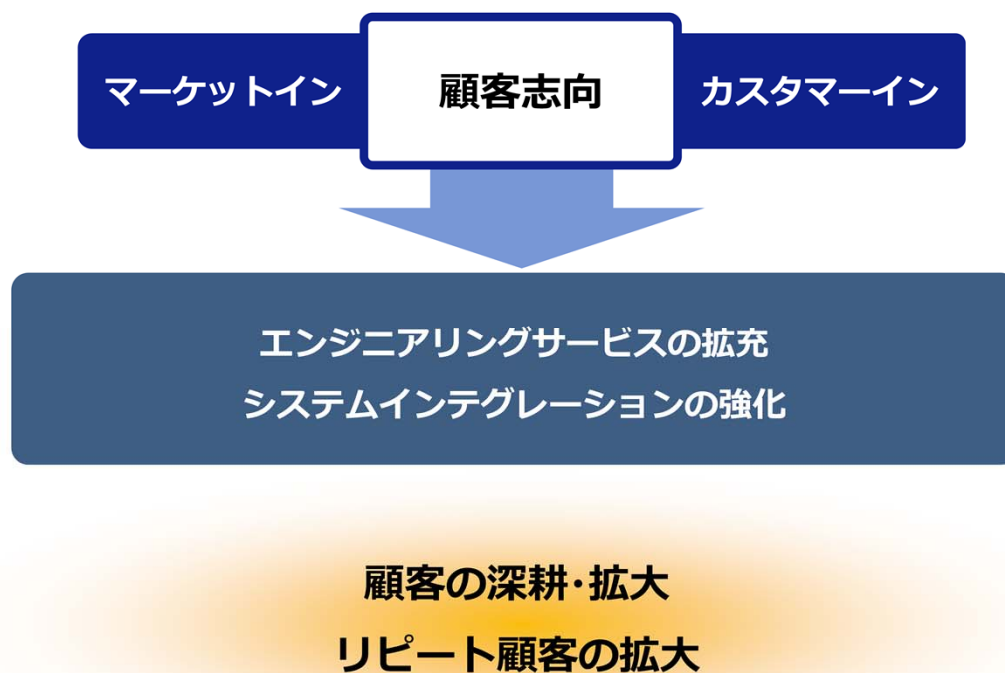


グローバル展開ではアローエレクトロニクス社との提携のもと、事業を進めております。

北米では自動車向けが好調で、昨年度は売上200億円を超える水準になりました。

今後は欧州において拠点展開を進めてまいります。

昨年度子会社化したKTLのアムステルダム支店に加え、今年度中にも新たなオフィスを開設する見通しで、丸文アローのビジネスで事業拡大に取り組む計画です。



システム事業では、「マーケットインとカスタマーインの顧客志向」をベースにして、「エンジニアリングサービスの拡充」や「システムインテグレーションの強化」に取り組んでおります。

システム事業の取組み ①

情報通信

- 独立した部門として運営を開始
- 競争力のある商材を拡充
 - Microsemi社 タイムサーバー
 - Spirent社 GPSシミュレーター
 - PCTEL社 RF信号測定器
- コンサルティング力を高度化



PCTEL社のRF信号測定器

レーザー機器

- 産業機器組込み用半導体レーザー
 - 産業機器・自動車分野での顧客拡大
 - フェムト秒レーザーなど取扱製品の拡充
- 医療機器向け光源部品
 - 眼底カメラや血液分析など利用分野を拡大



ルミナスデバイス社LED

情報通信の分野では今後、東京オリンピックに向けたインフラ整備や5G移動通信サービスなどで、市場拡大が見込まれます。

当社では、Microsemi社のタイムサーバやSpirent社のGPSシミュレータをはじめとする競争力のある商材を拡充するとともに、人員や営業体制の強化、コンサルティング力の高度化に取り組んでおります。

レーザー機器では、産業機器組込み用半導体レーザーが順調に推移しております。

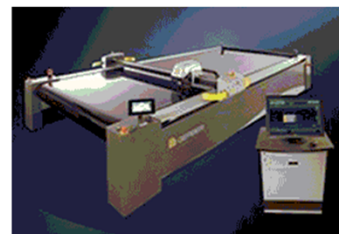
今後、微細な加工が可能となるフェムト秒レーザーなど、取り扱い製品の拡充に取り組み、更なる事業拡大を推進します。

また、医療機器向けに販売活動に取り組んでいる光源部品も昨年度は非常に好調でしたが、今後は、眼底カメラや血液分析、細胞観察など利用分野を拡大させてビジネス規模を一層成長させる計画です。

システム事業の取組み ②

試験計測機器

- 電子部品検査装置
 - 自動車など新たな分野での用途拡大
- Gerber Technology社の裁断機
 - アパレル関連顧客への入れ替え需要の掘り起こし
 - 自動車や産業向け新素材への展開を推進



Gerber Technology社
次世代自動裁断機

医用機器

- 池田医療電機を丸文通商に合併
 - 一体運営による営業力強化
- 取り扱い製品を拡充
- 保守・メンテナンス機能の強化

試験計測機器では、昨年度売上を牽引した電子部品検査装置で、従来のスマートフォン向けに加えて、自動車向けなど新たな分野での用途拡大に取り組めます。

また昨年度取扱いを開始したGerber Technology社の自動裁断機のビジネスでは、メインユーザーであるアパレル関連顧客の掘り起こしと、自動車や産業向け新素材への展開を推進しています。

医用機器では、この4月に子会社であった新潟県の池田医療電機を丸文通商に合併しました。エリアの近い北陸3県と新潟県を一体運営することで、営業力の強化を推進しております。

また、取り扱い製品の拡充にも取り組む計画です。

参考情報

© 2017 MARUBUN CORPORATION

企業概況

会社概要

創 業	1844年（弘化元年）
設 立	1947年（昭和22年）7月
所 在 地	東京都中央区日本橋大伝馬町8番1号
資 本 金	62億1,450万円
決算期日	3月31日
代 表 者	代表取締役社長 水野象司
売 上 高	連結 2,706億円（2017年3月期） 単体 1,594億円（2017年3月期）
従業員数	連結 1,397名（2017年3月末） 単体 671名（2017年3月末）
株式上場	東京証券取引所 市場第一部（コード:7537）

事業領域

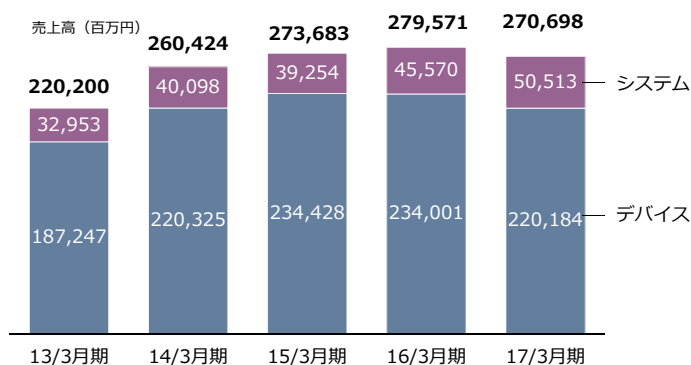
デバイス事業

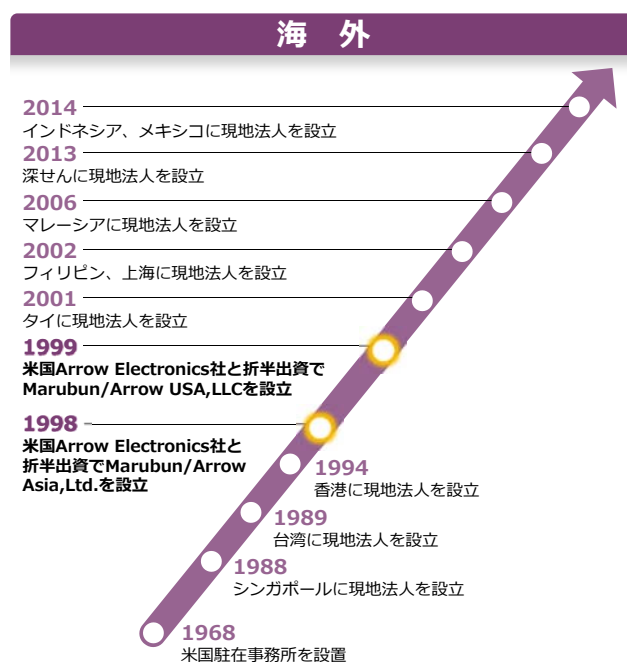
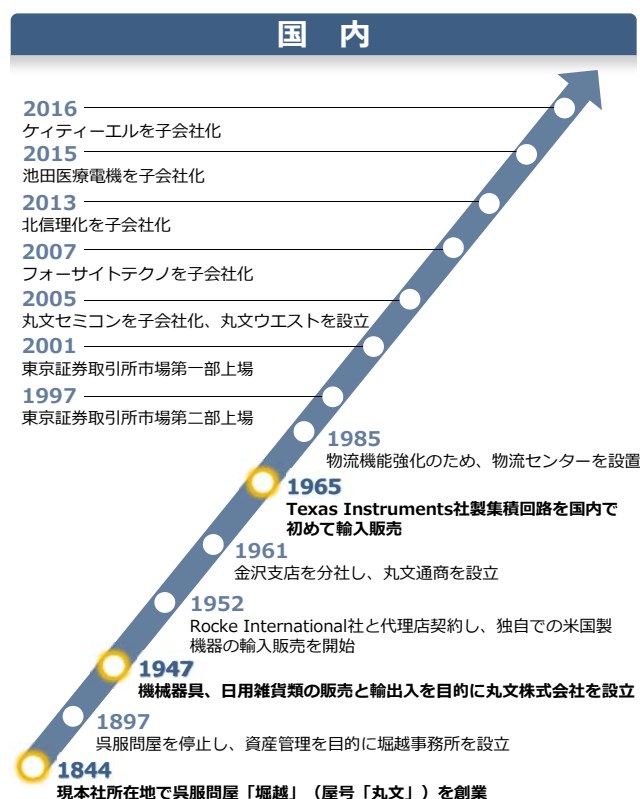
- 半導体
- 電子部品

システム事業

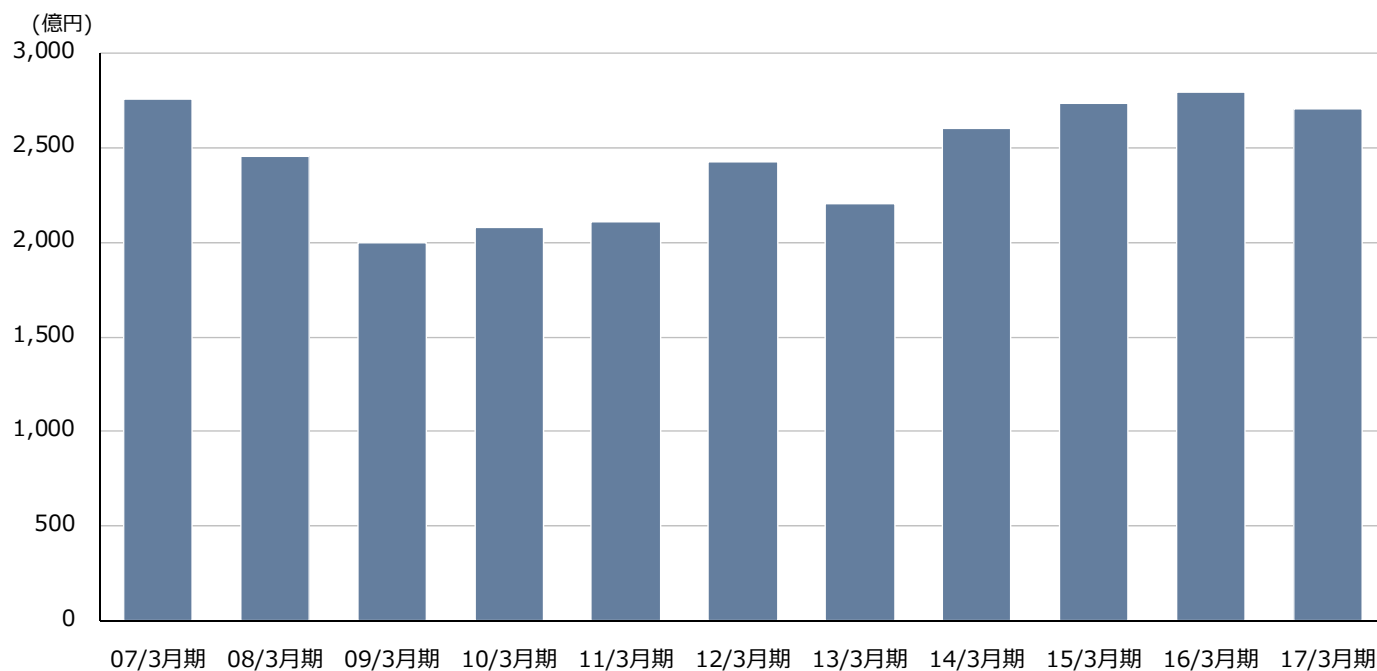
- 航空宇宙機器
- 試験計測機器
- 科学機器
- レーザ機器
- 医用機器

連結売上高の推移

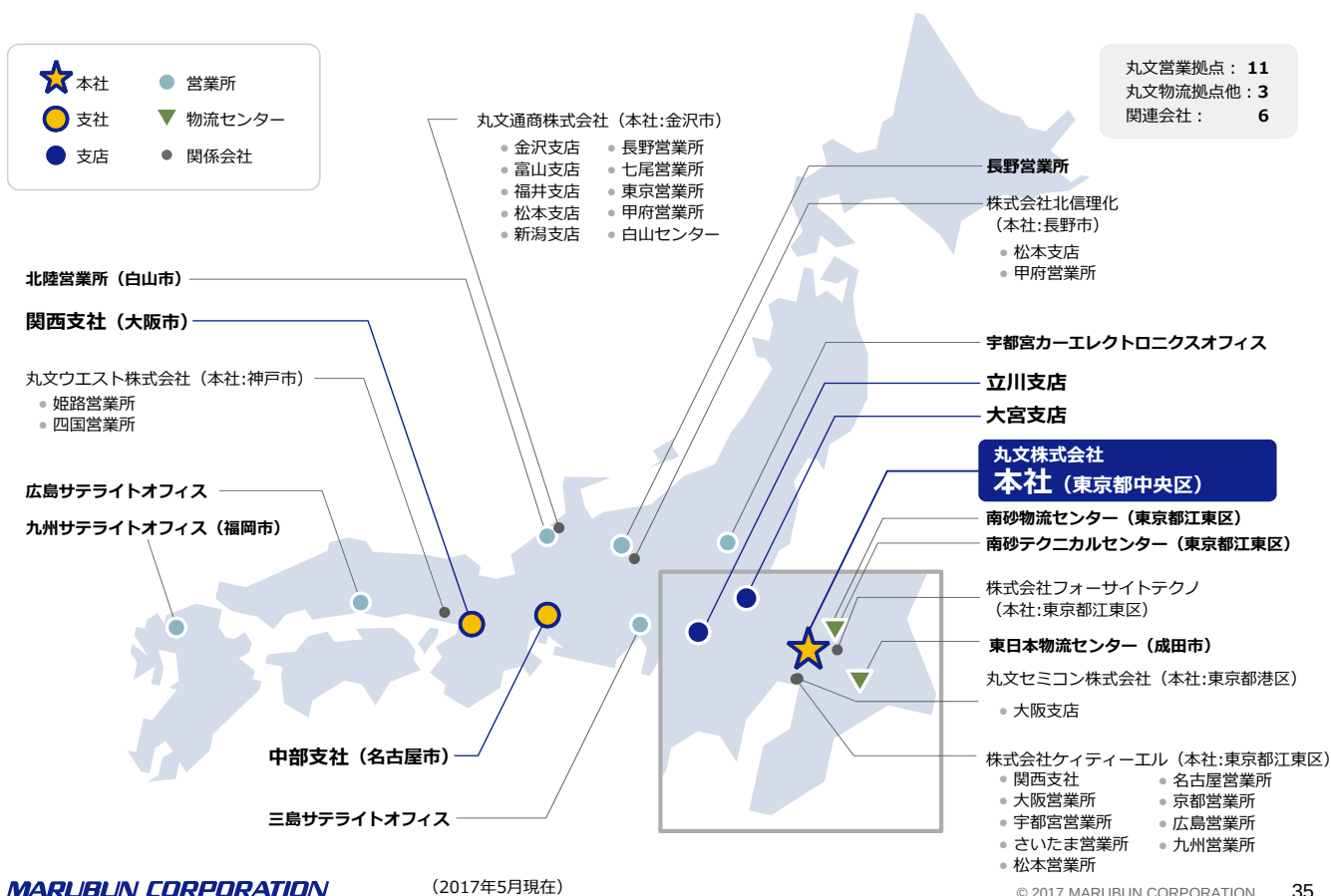




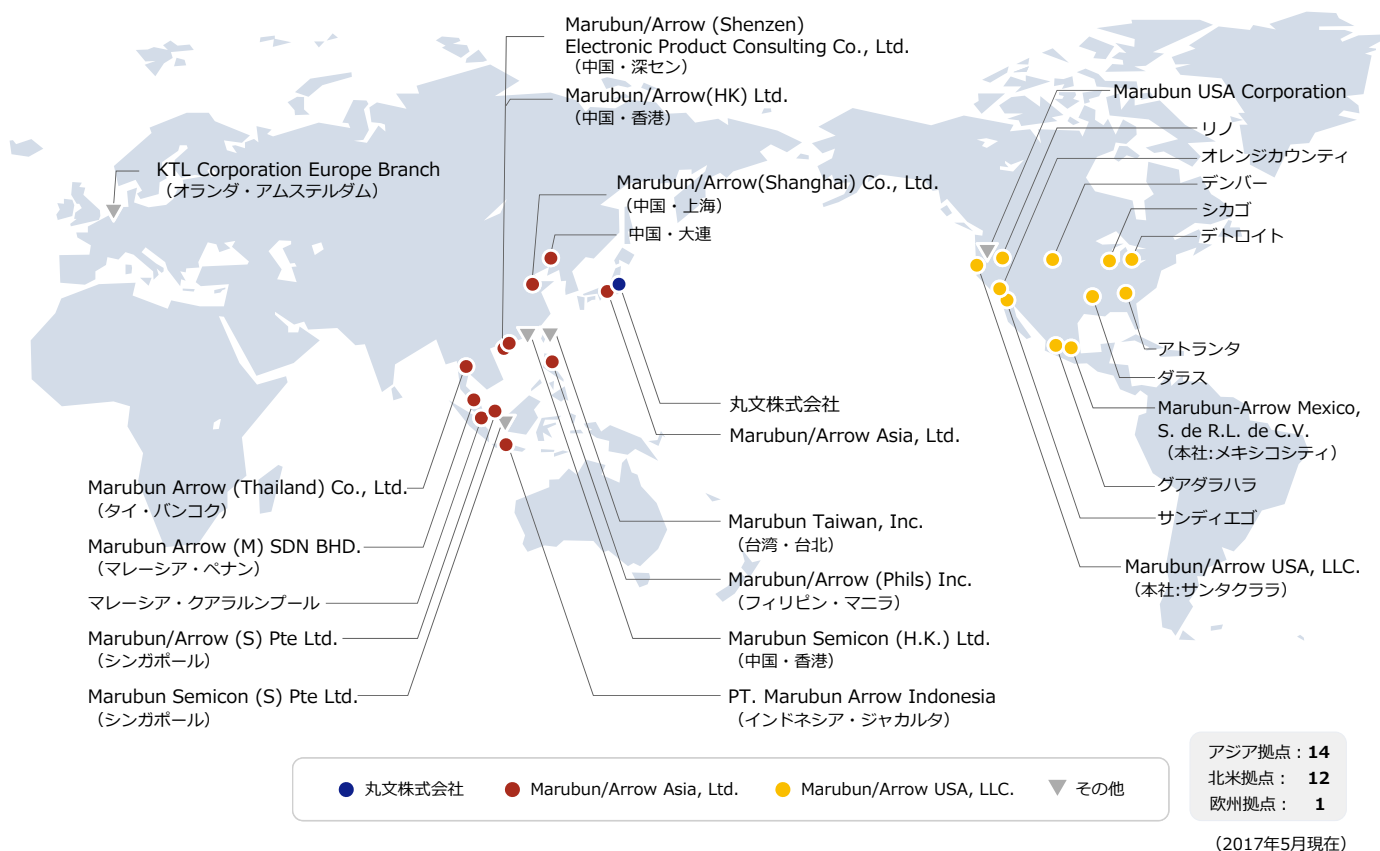
中長期売上トレンド



国内拠点

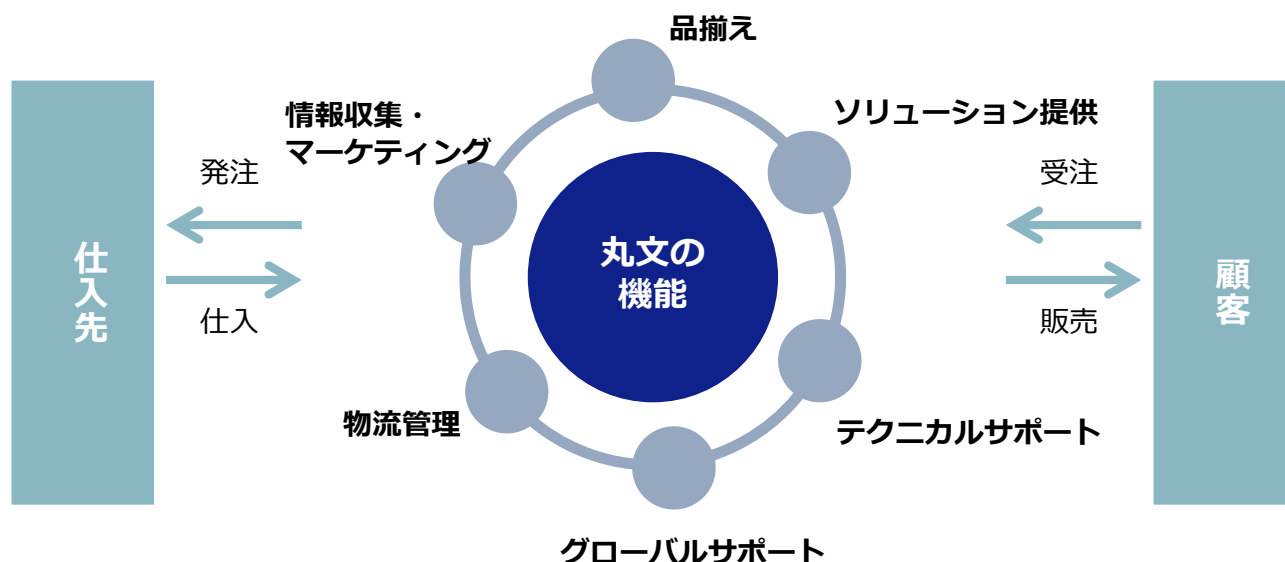


グローバルネットワーク



デバイス事業：特徴と強み

- 海外サプライヤを中心とした豊富な品揃え
- 米国アロー社(90ヶ国、465拠点)との提携によるグローバルネットワーク
- 高度な技術力をもとにしたソリューション提案力
- 強固な顧客基盤



デバイス事業：グループ会社概要

社 名	住 所	設立年月	出費比率	事 業 内 容
丸文セミコン株式会社	東京都港区	2005年3月	100.0%	サムスン電子製半導体・電子部品の仕入販売
Marubun Semicon (H.K.) Ltd.	Hong Kong, China	2010年1月	100.0%	
Marubun Semicon (S) Pte. Ltd.	Alexandra Road, Singapore	2013年11月	100.0%	
Marubun USA Corporation	California, U.S.A.	1983年10月	100.0%	
Marubun Taiwan, Inc.	Taipei, Taiwan	1989年11月	100.0%	台湾製デバイスの仕入販売
Marubun/Arrow Asia, Ltd.	British Virgin Islands	1998年10月	50.0%	丸文アローシンガポール、 丸文アロー香港の持株会社
Marubun/Arrow (S) Pte Ltd.	Anson Road, Singapore	1988年3月	50.0%	海外進出した日系企業への 半導体・電子部品の仕入販売
Marubun/Arrow (HK) Ltd.	Hong Kong, China	1994年8月	50.0%	
Marubun Arrow (Thailand) Co., Ltd.	Bangkok, Thailand	2000年10月	50.0%	
Marubun/Arrow (Phils), Inc.	Laguna, Philippines	2001年10月	50.0%	
Marubun Arrow (M) SDN BHD	Penang, Malaysia	2006年6月	50.0%	
Marubun/Arrow (Shanghai) Co., Ltd.	Shanghai, China	2002年9月	50.0%	
Marubun/Arrow (Shenzhen) Electronic Product Consulting Co., Ltd.	Shenzhen, China	2013年6月	50.0%	
PT. Marubun Arrow Indonesia	Jakarta, Indonesia	2014年4月	50.0%	
Marubun/Arrow USA, LLC*	Delaware, U.S.A.	1998年11月	50.0%	
Marubun-Arrow Mexico, S. de R.L. de C.V.*	MexicoCity, MEXICO	2014年9月	50.0%	
株式会社ケイティーエル	東京都江東区	1966年11月	100.0%	半導体・電子部品の仕入販売

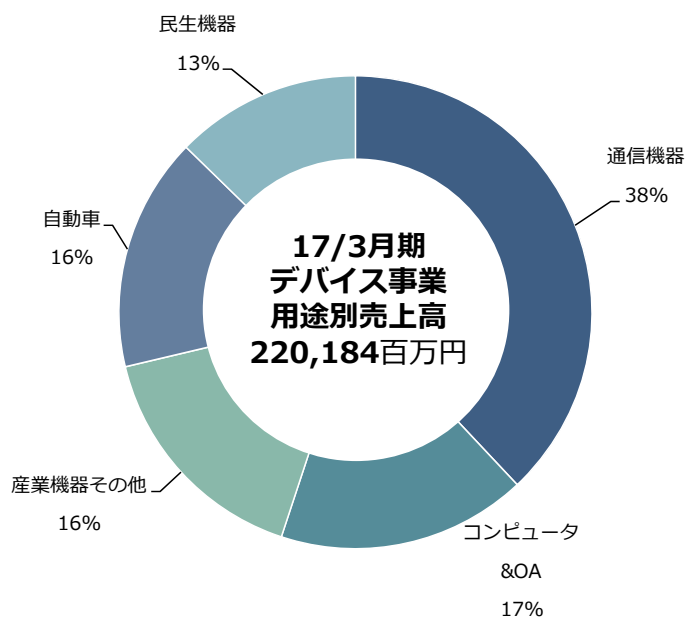
* Marubun/Arrow USA、Marubun-Arrow Mexicoは持分法適用関連会社です。

デバイス事業：取扱製品（サプライヤ別）

		サプライヤ（アルファベット順）															
		旭化成 エレクトロニクス	Broadcom (米国)	Cypress (米国)	Eink (台湾)	FINsix (米国)	IDT (米国)	Maxim (米国)	Molex (米国)	Qorvo (米国)	Samsung (韓国)	SanDisk (米国)	セイコー エプソン	セイコー インスツル	TexasInstruments (米国)	Unimicron (台湾)	
半 導 体	アナログIC	●	●					●		●				●	●		
	標準ロジックIC															●	
	メモリーIC	DRAM										●					
		フラッシュ										●	●				
		その他メモリー						●				●	●		●		
	マイクロ プロセッサ	MPU、MCU												●		●	
		DSP	●													●	
	特定用途IC	ASSP	●	●	●			●	●		●			●		●	
		ディスプレイドライバ										●		●		●	
		DMD														●	
LED											●						
カスタムIC	●										●		●				
電 子 部 品	表示デバイス				●						●						
	水晶デバイス						●						●	●			
	コネクタ・スイッチ・プリント基板								●							●	
	モジュール製品					●											

デバイス事業：主要取扱い製品（用途別）

		通信機器	民生機器	コンピュータ & OA	自動車	産業機器
半導体						
アナログIC	アナログ	●	●	●	●	●
	ディスプレイ	●	●		●	●
標準ロジックIC		●	●	●	●	●
メモリIC	DRAM	●	●	●	●	
	フラッシュ	●	●	●		
マイクロ プロセッサ	MPU、MCU	●	●	●	●	●
	DSP	●	●		●	●
特定用途IC	ASSP	●	●		●	
	ディスプレイドライバ	●	●	●	●	
	DMD	●	●	●	●	●
	LED	●	●	●		
カスタムIC		●	●	●	●	
電子部品						
表示デバイス		●	●	●	●	●
水晶デバイス		●	●		●	●
コネクタ・スイッチ・プリント基板		●	●			
モジュール製品			●	●	●	



システム事業：特徴と強み

- ハイエンド市場で、技術優位性の高い電子機器・部品を提供
- システム提案から据え付け保守まで、一貫した高レベルの技術サポート

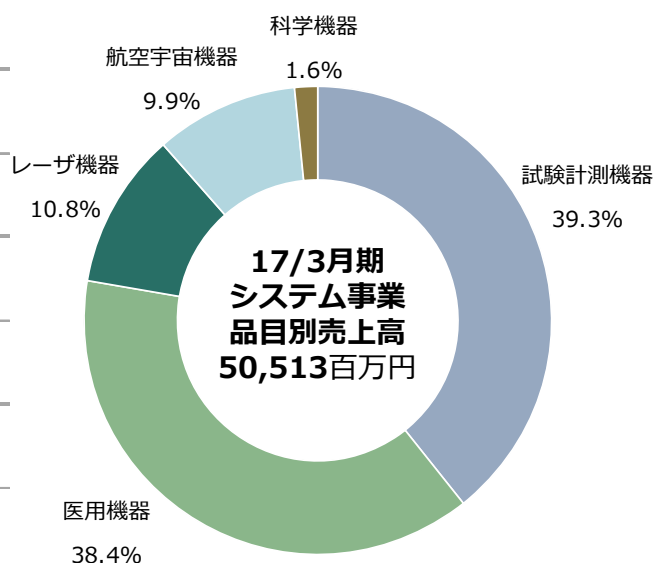


システム事業：グループ会社概要

社 名	本 社	設立年月	出費比率	事 業 内 容
丸文通商株式会社	石川県金沢市	1961年3月	100.0%	医用機器および試験計測機器の仕入販売・修理・メンテナンス
丸文ウエスト株式会社	兵庫県神戸市	2005年5月	100.0%	試験計測機器の仕入販売
株式会社北信理化	長野県長野市	1951年11月	100.0%	試験計測機器の仕入販売
株式会社フォーサイトテクノ	東京都江東区	1999年3月	51.0%	システム製品の修理・メンテナンス、エンジニアリングサービス

システム事業：主要取扱い製品①

分野	主要取扱商品	主要仕入先
医用機器	画像診断機器	シーメンス、島津製作所、コニカミノルタヘルスケア
	人工透析機器	日機装、旭化成メディカル、カネカメディックス
試験計測機器	検査・計測機器	アキム、島津製作所、ADLINK、AITECH
	組込みコンピュータ	
	製造装置 組立装置	セイコーエプソン、日本アビオニクス
航空宇宙機器	高信頼性部品	Tele Communication Systems、Plascore、Lavision
	計測・センサ	
	航空関連機器 高周波電子機器	CPI、L3 Communications
レーザー機器	半導体レーザー	nLight、Laserline
	レーザー加工機	
	ネットワーク機器 光学部品	Microsemi、Calnex Solutions、Excelitas Technologies
科学機器	MOCVD装置	AIXTRON、Riber
	MBE装置	



システム事業：主要取扱い製品②

航空宇宙機器



BEI Sensors社
人工衛星搭載用部品



CPI社
マイクロ波電子管

試験計測機器



島津製作所社
ガスクロマトグラフ質量分析計



アキム社
電子部品組立装置

科学機器



AIXTRON社 MOCVD装置



DCG社
赤外線発熱解析装置



富士機械製造社
大気圧プラズマ表面改質装置

システム事業：主要取扱い製品③

レーザ機器



Microsemi社
ネットワークタイムサーバー



Laserline社
レーザー加工装置



nLIGHT社
組み込み用半導体レーザ

医用機器



シーメンス・ジャパン社
X線CT装置

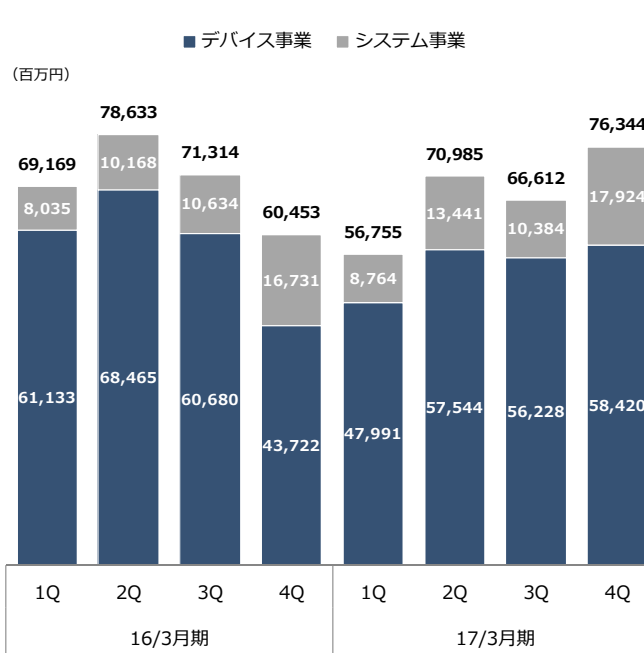
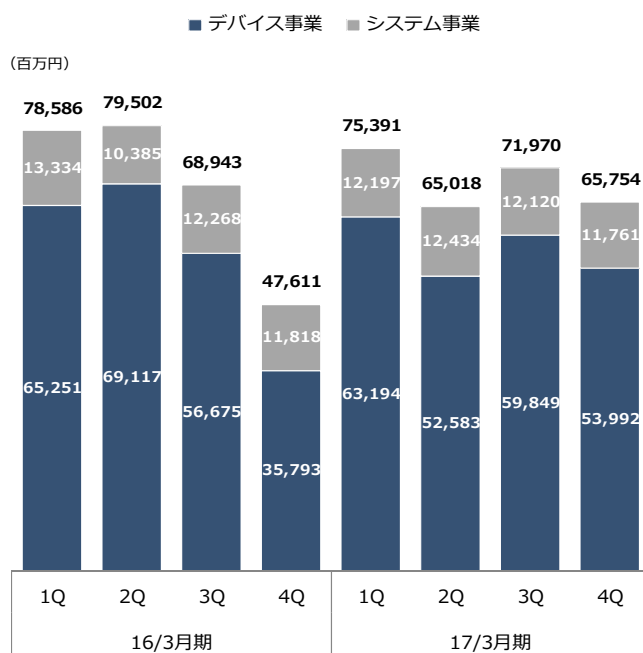


日機装社
人工透析装置

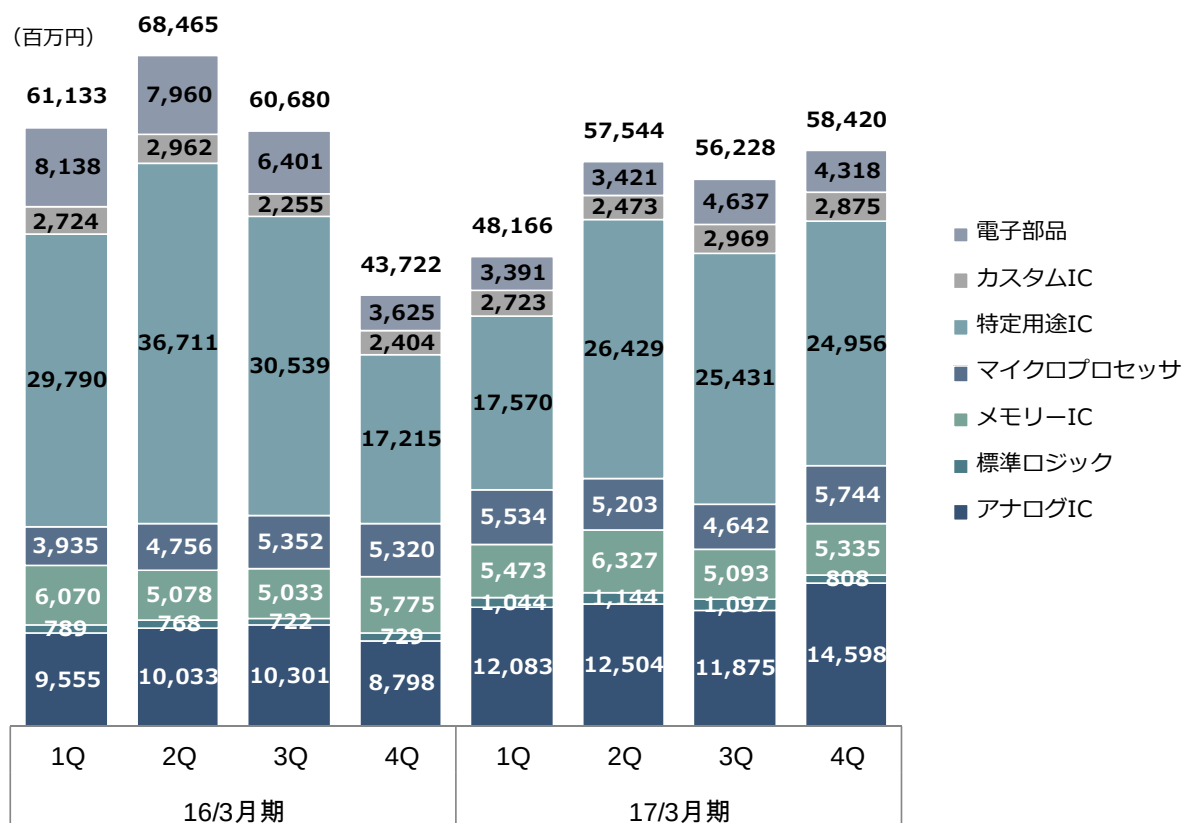
業績四半期推移（事業別受注高・事業別売上高）

事業別受注高

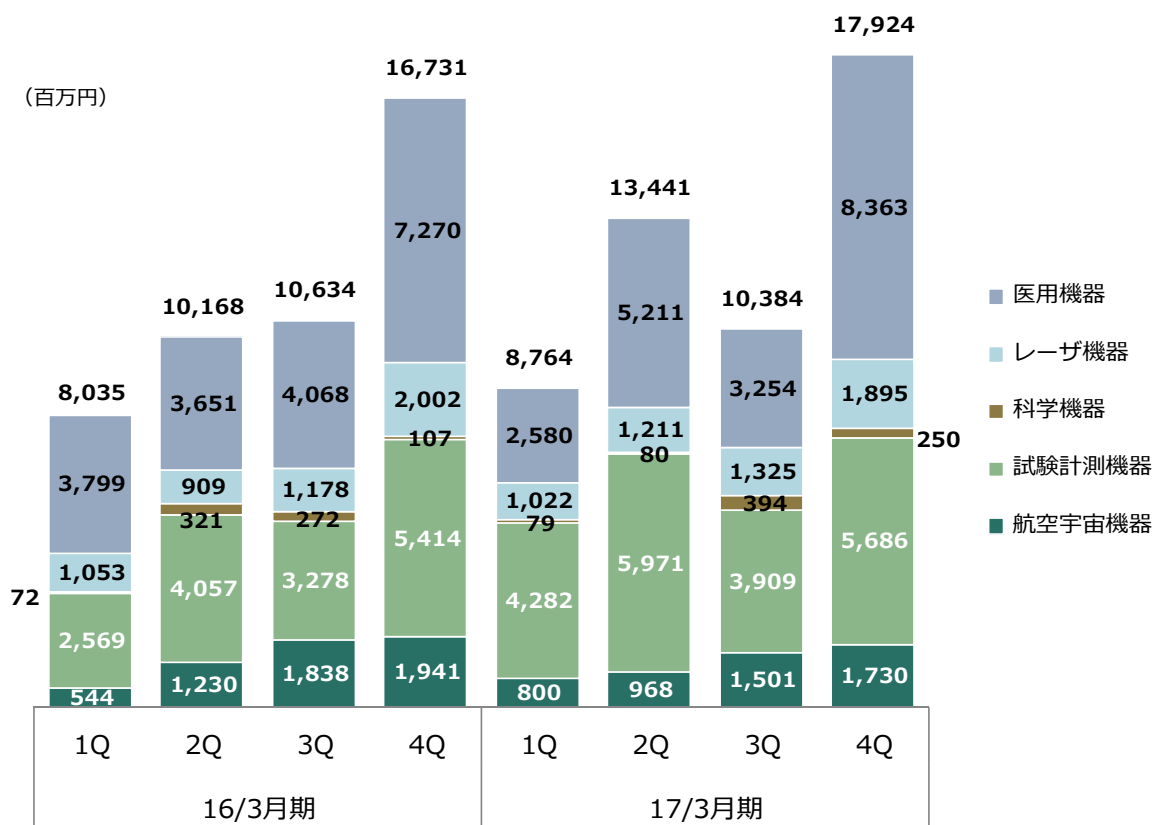
事業別売上高



業績四半期推移（デバイス事業：品目別売上高）



業績四半期推移（システム事業：品目別売上高）



本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な重要な要素により異なる可能性がありますことをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ

丸文株式会社 経営企画部

TEL 03-3639-3010

E-mail ir@marubun.co.jp